

できるものからセーフコミュニティ活動を始めましょう

身近な生活の中に、簡単にできるセーフコミュニティ活動があります。
一人ひとりが心がけ実践することで「安全で安心なまち」へ繋がります。



【家中】で、できるよ

- つまずいて転ぶところがないか確認しましょう（カーペット、雑誌、電気コード）
- 転倒予防体操である「ちちぶお茶のみ体操」を実践しましょう
- ハザードマップで危険場所を確認し、避難場所・避難ルートを決めておきましょう
- 非常持出品を用意しておきましょう（水・食糧・懐中電灯、ラジオなど）
- 「ちちぶ安心・安全メール」を登録しましょう
- 玄関灯や門灯を点灯して、地域を明るくしましょう
- 眠れない、食欲がないなど身近な人の変化に気づいて、声かけや見守りをしましょう
- 詐欺に気をつけましょう 電話で「お金」の話は、すべて詐欺です

【外】で、できるよ

- 夜、外出するときは、明るい服装や反射材を身に着けましょう
- 自転車に乗るときは、ヘルメットをかぶりましょう
- 自転車に鍵をかけるときは、二重ロックをしましょう
- 車や自転車に乗る時は、譲り合いの精神を持って安全運転に心がけましょう
- 夕暮れ時に車や自転車に乗るときは、早めにライトを点灯しましょう
- 犬の散歩やジョギングをしながら、あいさつや地域の見守りをしましょう
- 防災行政無線から見守り放送が聞こえたら、子どもの見守りにご協力をお願いします
- 「虐待や徘徊かも知れない」と思ったら、窓口へ連絡しましょう
- 「普段と様子が違う人」や「橋から飛び降りそうな人」がいたら、声かけをしましょう

【学校】【職場】【地域】で、できるよ

- 自分がされてイヤなことは、相手（友達）にもしないようにしましょう
- 不安や悩み事があったら、一人でかかえこまず、まわりに相談しましょう
- 災害時に地域で助け合うための行動計画「地区防災計画」をつくりましょう
- 地域の防災訓練に参加しましょう

★新たな取り組みへの参加・協力をしましょう

- 「セーフドライブプロジェクト（※1）や目撃情報通報プロジェクト（※2）」へ参加しましょう
- 防犯対策として、自宅に防犯カメラ、車にドライブレコーダーをつけましょう

※1: セーフドライブプロジェクトとは：安全運転に心がけていただくドライバーを増やす取り組みです。専用のステッカーを車の後部へ貼っていただき、ご本人と後続車へ安全運転を啓発するものです。取り組みへご協力をいただける方は、事務局危機管理課（TEL22-2206）へお問い合わせ下さい。

※2: 目撃情報通報プロジェクトとは：犯罪や事故等を目撃した際に、警察署へ目撃情報や映像（防犯カメラやドライブレコーダーの映像）を提供していただくものです。「ちちぶ安心・安全メール」の秩父市の登録画面から登録を行うことができ、登録者へは情報提供いただきたい事件・事故等の内容をメールでお知らせします。

みんなで
つくる

セーフコミュニティちちぶ

ずっと住み続けたい“日本一安全・安心なまち”をめざして
～世界基準の安全・安心なまちづくり～



セーフコミュニティ活動の一例

危険予測学習



街頭キャンペーン



避難計画図作成



茶トレ講習会



交通事故防止キャンペーン



セーフコミュニティって何？

「ケガや事故は偶然に起こるものではなく、予防することができる」という考えのもと、地域のみなさん、行政、警察、家庭、学校などが一緒になって「安全・安心なまちづくり」を目指す取り組みで、世界保健機関（WHO）が推奨する国際認証制度です。

どうして、取り組むの？

セーフコミュニティの活動は、さまざまなデータを分析することにより見えてくる地域の課題を解決するために、地域のみなさん、行政、警察、家庭、学校などが連携・協働して取り組みを行います。そのため、秩父市にとってより有効で根拠のある取り組みを展開することができます。

どんな効果があるの？

- ①けがや事故が減るため、安全・安心が向上し、経済的損失（ケガの治療費）が減少します。
- ②統計データやアンケートを使って評価・検証・改善をするため、効果的に成果へ結びつきます。
- ③国際認証のため、「安全・安心なまち秩父」として、イメージアップや経済的な効果（観光や定住したい人が増えるなど）が図れます。

何をしたらいいの？

身近に実践できるセーフコミュニティ活動を、裏面に表示しています。できるものから実践して、「事故やケガのない安全で安心なまち」の実現を目指し、ご協力をお願いします。

セーフコミュニティの取り組みや効果（抜粋）

秩父市では、データの分析結果やアンケート調査などを基に、安全・安心に関する7つの課題について対策委員会を設置し、レベルの高い取り組みを行っています。



犯罪の防止

SC取り組み前の犯罪発生率は、全国・埼玉県と比べると低い状況でしたが、減っていない状況でした。また、中心市街地の犯罪発生率も、埼玉県の平均並みに高かったことから、防犯パトロールの支援・強化、防犯カメラ及び作動中表示の設置の推進、鍵かけ運動の実施などを行っています。

【刑法犯の認知件数】
2012年（SC取組前）

474
件

※40.9%減少

2018年
280
件



地域での防犯パトロール



防犯カメラと作動中表示

自殺予防

データ結果では、全国・埼玉県と比較し自殺の発生率が高く、市外からの自殺者も多いことから、自殺予防フォーラムの開催、ゲートキーパー養成講座の開催、投身自殺が多い橋等へ自殺予防標語入り看板の設置などを行っています。

【自殺者数】

2012年（SC取組前）

14
人

※14.3%減少

2018年
12
人



ゲートキーパー養成講座



自殺予防標語入り看板設置

当市は
飛び降り
が多い

災害時の安全

当市は、土砂災害警戒区域が多く点在し、埼玉県内にある土砂災害警戒区域の約20%が存在しています。また、アンケート結果では、市民の災害に対する不安も高いことから、避難計画図（逃げ地図）の作成支援、自主防災組織リーダーの養成、自主防災訓練の充実などを図っています。

【自主防災訓練の参加者数】

2012年（SC取組前）

81町会（全82町会）
8,010
人

※参加者数の増加

2018年

80町会（全80町会）
8,947
人



自主防災リーダー養成講座



自主防災訓練

交通安全

データ結果では、市内の交通事故件数は300件前後発生し、死亡事故も起こっていたことから、子どもや高齢者を対象とした交通安全教室、反射材や自転車ヘルメットの着用・促進、交通事故防止街頭キャンペーンなどを行っています。

【人身交通事故件数】
2012年（SC取組前）

280
件

※38.2%減少

2018年

173
件



高齢者の交通安全教室



子どもの交通安全教室



ヘルメットの
着用を促
している

子どもの安全

データ結果では、子どもの受傷事故として、学校内での受傷や自転車での交通事故が多く発生し、また、乳幼児は自宅での受傷が多いことから、乳幼児の家庭内事故を予防するパンフレットの作成・配布、保育所での危険予測学習、学校内や部活動でのケガの防止などを行っています。

【モデル校（花小・南小・二中）でのケガの発生件数】

2014年（集計開始）

1,820
件

※14.2%減少

2018年度

1,562
件



◀家庭内事故を
予防する
パンフレット

イラスト協力
秩父高校
秩父農工科学高校

ファウルチップから眼を守る



部活動でのケガの防止

高齢者の安全

データ結果では、高齢者が救急搬送される割合が高く、特に自宅内での転倒による受傷が多いことから、家庭内のできる体操（お茶のみ体操）の普及、家庭内の転倒を予防するリーフレットの作成・配布、ふれあいコール（見守り活動）の推進、サロン活動の充実などを図っています。

【お茶のみ体操
講習会参加者数】

2013年（講習会開始）

延べ
776
人

※13.8倍に増加

2018年度

延べ
10,680
人

女性は朝方の転倒に注意



家庭内の転倒を予防するリーフレット



サロン活動の推進

自然の中での安全

登山・ハイキングや農林作業中の事故により、救急搬送される割合が高く、また、余暇としてのサイクリング中の事故も多くなっていることから、安全登山キャンペーン、農林機具取扱いの際の注意喚起チラシの配布、サイクリング安全ポイントの設置などを行っています。

【山岳遭難事故件数】

2012年（SC取組前）

34
件

※23.5%減少

2018年

26
件



安全登山キャンペーン



サイクリング安全ポイント
（サイクルラック、マップ、空気入れ）